

彙 報

平成27年度広島大学日本語教育学講座言語・文化・教育研究会，特別講演会

◎第15回大会（平成27年5月7日）

○講演

現代日本語語彙における外来語の基本語化 — 20世紀後半の通時的新聞コーパスを資料として —

金 愛蘭 先生

【講演要旨】

日本語の書きことばの基本語彙は，近代以前の和語優勢の状態から，明治時代には多くの漢語が進出し，その後は外来語の進出が活発になるという変化を経て，現在の漢語・外来語優勢の状態に至っている。基本語彙のこうしたマクロな変化は，個々の語が新たに基本語彙の仲間入りをする「基本語化」と，逆に基本語彙から外れる「周辺語化」というミクロな変化によって支えられている。発表者は，現在，前者の「基本語化」に焦点を当て，これまで近代の漢語の基本語化と現代の外来語の基本語化を中心に個別に行われてきた基本語化の研究を総合し，「基本語化」現象を記述し理論化するための統一的な枠組みを考案・設定して，「近現代日本語における基本語彙の変化・形成の総合的な記述」に向けた方法論的基盤を構築することを目的とし，研究を進めている。

発表では，「20世紀後半の外来語の基本語化」現象に注目し，自作の大規模な通時的新聞コーパスを資料に，その量的・質的な考察を行った。とくに，言語外的な理由では説明できない抽象的な意味を表す外来語が基本語彙の仲間入りをしていく（＝基本語化していく）局面に注目し，そうした基本語化がどのような過程を経て行われたのか，さらに，それは和語や漢語の類義語があるにもかかわらずなぜ生じたのかを，ケーススタディを紹介しつつ，語彙論的・文法論的な観点から検討した。また，従来ほとんど行われてこなかった文章論的考察（外来語の文章構成機能の獲得）についても検討を行った。

○研究発表

【口頭発表】

趙 静（博士課程前期2年）・方正（博士課程後期1年）

日本語教育学の歩き方・初学者のためのCANDOリストの作成

西條 結人（博士課程後期1年）

意見文における文章構造と説得のアピールの分析

— 日本語母語話者とスペイン語母語話者の作文比較 —

【ポスター発表】

宋 潔（博士課程前期2年）・孫 世興（博士課程前期2年）・伊藤 亜希（博士課程後期3年）

日本語学習者の携帯電話会話での開始部と終結部の談話構造

— 接触場面での依頼を対象として —

陣内満喜子（博士課程前期3年）

現代語版 UniDic の解析上の課題

— 現代詩の分析を通して —

林 宗緯（博士課程前期2年）・ヤースィン・ヤヴズ（博士課程前期2年）

日本語における悪口の使用場面について

— トルコ語と台湾中国語との比較も含め —

◎第16回大会（平成27年7月2日）

○研究発表

【口頭発表】

岡本しおり（博士課程前期1年）

オタクの文化社会学

勝丸 大規（博士課程前期1年）

『徒然草』における「異様」の思想

－本文とその受容に着目して－

シャルル・マルタ・ドゥイスシロ（博士課程後期3年）

武田麟太郎と「南進」著作について

◎第17回大会（平成27年11月5日）

○研究発表

【口頭発表】

森重 里保（博士課程前期1年）

学習語彙から見る児童の語彙推測

－児童のルーツに着目して－

山本 健太（博士課程前期1年）

日本語音声指導における拍感覚の訓練方法の検討

－英語・中国語母語話者を対象として－

【ポスター発表】

シェキャラビ・ゼイナブ（博士課程後期1年）・石川 裕大（博士課程前期2年）

日中同形類義語の認知処理における中国語義の干渉

－O語（2）の文正誤判断課題を用いて－

徐 婕（博士課程前期2年）・王 韻竹（博士課程前期2年）

日本語学習者のEメールにおける断り場面の言語構造の特徴

徐 暢（博士課程前期1年）

中国語を母語とする日本語学習者の文章聴解におけるメモ行為の効果

－学習者の作動記憶容量を操作した実験的検討－

2015年度（平成27年度）日本語教育学講座 歳時記

2015年（平成27年）

- 4月1日 松原 愛特任助教着任
3日 入学式
陳 嫻如特任助教着任
4日 新入生ガイダンス（学部・大学院）
7日 在学生前期ガイダンス（4年生・過年度生）
8日 在学生前期ガイダンス（2年生・3年生）
11日 新入生オリエンテーション行事（於：西条共同研修センター）
5月7日 第15回広島大学日本語教育学講座 言語・文化・教育研究会
金愛蘭先生特別講演会
7月2日 第16回広島大学日本語教育学講座 言語・文化・教育研究会
18～20日 酒井 弘先生（早稲田大学・教授）集中講義
23日 修士論文中間発表会
30日 卒業論文中間発表会
8月3～6日 青木博史先生（九州大学・准教授）集中講義
7～10日 高山善行先生（福井大学・教授）集中講義
18～19日 オープンキャンパス
24～27日 難波康治先生（大阪大学・准教授）集中講義
9月9～10日 大学院教育学研究科（博士課程前期）入学試験（一般選抜・社会人特別選抜）
16～19日 加藤 徹先生（明治大学・教授）集中講義
20～27日 酒井 弘先生（早稲田大学・教授）集中講義
30日 在学生後期ガイダンス（1年生・4年生・過年度生）
10月1日 在学生後期ガイダンス（2年生・3年生）
ババロラ・ミッキー・アムネ特任助教着任
11月5日 第17回広島大学日本語教育学講座 言語・文化・教育研究会
7日 就職ガイダンス
講師：皆越香苗氏（日本国際協力センター 2009年卒）
小笠原盟氏（リクルート・マーケティング・パートナーズ 2015年卒）
中山 茜氏（海田小学校 2012年卒）
本城美怜氏（山口大学 2013年卒）
19～20日 AO選抜（総合評価方式・フェニックス方式）

2016年（平成28年）

- 2月15日 卒業論文発表会
16日 修士論文審査会
16～17日 大学院教育学研究科入学試験
博士課程前期（一般選抜第二次・社会人特別選抜第二次・外国人留学生特別選抜）
博士課程後期（一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜）
16～19日 小河原義朗先生（北海道大学・准教授）集中講義
18～21日 酒井 弘先生（早稲田大学・教授）集中講義
22～24日 山東 功先生（大阪府立大学・教授）集中講義
25～26日 広島大学一般入試（前期日程）
3月19日 創設30周年記念行事
23日 学位記授与式

日本語教育学講座 教職員名簿

2015年度（平成27年度）

50音順・敬称省略

講座主任 白川 博之

教 授 倉地 暁美 白川 博之 中村 春作 西原 大輔
松見 法男 畑佐由紀子 柳澤 浩哉

准 教 授 永田 良太 西村 大志 渡部 倫子

講 師 金 愛蘭

助 教 陳 嫻如* ババロラ・ミッキー・アムネ* 松原 愛*

事務補佐員 山田 典子

*2015年度より当講座所属。

非常勤講師授業科目等

<学部>

日本語の変遷	青木 博史 先生（九州大学・准教授）
日本語の音声と発音	小河原義朗 先生（北海道大学・准教授）
東アジアのなかの日本文化	加藤 徹 先生（明治大学・教授）
言語の比較と対照研究	酒井 弘 先生（早稲田大学・教授）
言語学の理論と方法	酒井 弘 先生（早稲田大学・教授）
日本語学習とマルチメディア	難波 康治 先生（大阪大学・准教授）
日本文化研究	山東 功 先生（大阪府立大学・教授）

<大学院>

対照言語学特講Ⅱ	深見 兼孝 先生（広島大学・准教授）
対照言語学演習Ⅱ	深見 兼孝 先生（広島大学・准教授）
日本語史特講	高山 善行 先生（福井大学・教授）
対照言語学特講Ⅰ	酒井 弘 先生（早稲田大学・教授）

2015年度（平成27年度）論文題目一覧 （学生番号順）

博士論文（2015年度）

氏 名	指導教員 (主査)	称 号	論 文 題 目
郭 昱昕	松見 法男	博士（教育学）	プロソディ・シャドーイングが日本語の長音・促音の知覚・産出改善に及ぼす効果 ー中国語を母語とする日本語学習者を対象としてー
陳 若婷	白川 博之	博士（教育学）	談話における副詞「確かに」と「もちろん」の意味・用法
久保 琢也	畑佐由紀子	博士（学術）	OS 語順の産出における普遍性と言語個性 ーカクチケル語 VOS 語順における検討ー
尹 帥	畑佐由紀子	博士（学術）	日本語学習者の語彙認知における超分節音素の役割 ー視線計測を用いた検討ー
韓 暁	松見 法男	博士（教育学）	日本語学習者のシャドーイング時の音韻・意味処理に及ぼすワーキングメモリ容量と音韻的短期記憶容量の影響
徐 芳芳	松見 法男	博士（教育学）	中国語を母語とする日本語学習者の日本語文章の理解・記憶における説明予期の効果 ー読解前教示を操作した実験の検討ー

修士論文（2015年度）

氏 名	指導教員	論 文 題 目
金 京怡	永田 良太	日本語及び中国語における人称詞の省略条件
横山 千聖	畑佐由紀子	英語を母語とする中上級日本語学習者の意見陳述の談話構成と表現形式 ー日本語母語話者との比較をとおしてー
陣内満喜子	畑佐由紀子	多義動詞の効果的な学習方法の検討 ープロトタイプを用いた学習と文脈を用いた学習の比較ー
山下 順子	畑佐由紀子	日本語学習に対する動機づけ・自己調整学習ストラテジー・自律的学習行動の関係 ー韓国人学習者を対象としてー
宋 潔	畑佐由紀子	ビジネス場面における電話応対 ー中国人日本語学習者のアポイント電話を中心にー
李 雪寧	松見 法男	中国語を母語とする中級日本語学習者の文章聴解における漢字想起の有効性 ーワーキングメモリ容量と材料の難易度の観点からー
石川 裕大	畑佐由紀子	日本語母語話者と中国人上級日本語学習者の終助詞「ね」と「よ」の使用意識 ー同等と目上への発話に注目してー
林 宗緯	白川 博之	可能表現における他動詞可能形と自動詞の使い分けに関する研究
葉 夢珂	永田 良太	日本語学習者のケドで終わる「言いさし」の使用と言語的反応 ー中国語を母語とする上級日本語学習者を対象にー

西本淳一郎	渡部 倫子	外国人窓口対応における日本人職員の評価プロセス ー業務経験による変化に着目してー
趙 静	畑佐由紀子	中国人日本語上級学習者の作文産出過程に関する研究 ーストラテジーに着目してー
王 韻竹	金 愛蘭	中国語を母語とする日本語上級学習者における日・中非同根語の処理過程 ー事象関連電位を用いた検討ー
孫 世興	渡部 倫子	Can-do statements を用いた自己評価に影響を及ぼす要因 ー中国人 JFL 学習者の聴解を対象にー
YAVUZ YASIN	永田 良太	日本語における「複数」の解釈 ー累加複数・結合複数の解釈を中心にー
徐 婕	松見 法男	中国語を母語とする上級日本語学習者における語彙表象と概念表象の連合関係 ー線画ー単語ストループ命名課題を用いた検討ー

卒業論文（2015年度）

氏 名	指導教員	論 文 題 目
内之倉朋子	永田 良太	敬語使用の認識に関する世代間の差異
古本 裕樹	永田 良太	LINE における表現の特徴 ー性差に着目してー
大越 尚斗	西原 大輔	宮沢賢治「セロ弾きのゴーシュ」を読む ーほんとうのさいわいとはなにかー
青木 未央	西原 大輔	三遊亭円朝『怪談乳房榎』論
波多間麻奈美	倉地 暁美	ある国立大学における日本人大学生の同性婚に対する意識
施向 伸栄	渡部 倫子	外国にルーツを持つ保護者のための「やさしい日本語」換言対リスト ー学校配布物を対象にー
中下 怜称	松見 法男	読解力に及ぼす批判的思考力の影響
水谷 文信	柳澤 浩哉	ICT 機器を活用した授業の現状とその課題 ー国語科授業で活用するためにー
西岡有希奈	西原 大輔	aiko の歌詞における情景描写について
岡部 遥佳	西村 大志	生活の場としての観光地 ー倉敷美観地区にみるー
寺田 七海	倉地 暁美	日本におけるワーク・ライフ・バランス
小村 静香	金 愛蘭	韓国人日本語学習者の日本語漢語の音韻推測に関する一考察
中村 彩希	永田 良太	日本語母語話者の「感謝」に対する応答表現
河野 直人	中村 春作	日本中世～近世における香文化について ー茶の文化との関わりを軸にー
松本 侑貴	柳澤 浩哉	森田芳光 ー家族論に注目してー
上寺 裕子	西村 大志	現代のキャラクターと癒し ー「リラックマ」の分析を通してー

高田 詩穂	西原 大輔	岡本太郎の伝統論について ーフランス留学に着目してー
木本健太郎	柳澤 浩哉	『坊っちゃん』の思考 ー文体と修辞技法に表れた「おれ」の思考の特徴ー
寺戸 華菜	白川 博之	助詞「とか」の意味・用法 ー単独用法に着目してー
武石 真穂	松見 法男	学校現場における教師の方言使用に対する生徒の印象評定 ー大分方言を用いた調査研究ー
川端 まみ	柳澤 浩哉	三島由紀夫の修辞技法 ー『金閣寺』におけるその特徴と効果ー
松永 萌那	永田 良太	「別れ」の場面に見られる表現の性差
井上真梨子	柳澤 浩哉	太宰治の女性独白文
尾崎 結子	西村 大志	2.5次元舞台化作品に見る漫画のメディアミックスと今後の可能性
岡田 信	白川 博之	自然会話における独話的表現
木村 祐佳	永田 良太	日本語におけるプロポーズの特徴 ー1990年代～2010年代のテレビドラマ・映画を分析資料としてー
大坂未奈子	西村 大志	「ジミ婚」の誕生にみる結婚式の変容
重政 直弥	西原 大輔	吉野弘の『夕焼け』 ー国語科教材の視点からー
徳永 理乃	松見 法男	文字の色が外国語の未知単語の記憶に及ぼす効果 ー筆記を用いた単語の記憶においてー
佐々木祐実	西原 大輔	日本における白雪姫の改変 ー明治から現在までー
小泉 佳那	柳澤 浩哉	川端康成の文体 ー『雪国』と『伊豆の踊子』を中心にー
中内梨紗子	西原 大輔	仏教的視点から見る藤原義孝の恋歌
中村 歩	白川 博之	話し言葉における「なんか」の意味・用法について

執筆者紹介

倉地 暁美（日本語教育学講座 教授）

白川 博之（日本語教育学講座 教授）

松見 法男（日本語教育学講座 教授）

柳澤 浩哉（日本語教育学講座 教授）

永田 良太（日本語教育学講座 准教授）

陳 嫵如（日本語教育学講座 特任助教）

朱 桂栄（北京外国語大学 北京日本学研究センター 准教授）

費 曉東（北京外国語大学 北京日本学研究センター 講師）

シャルル・マルタ・ドゥイスシロ

（文化教育開発専攻 日本語教育学分野 博士課程後期大学院生）

帖佐 幸樹（文化教育開発専攻 日本語教育学分野 博士課程後期大学院生）

徐 暢（言語文化教育専攻 日本語教育学専修 博士課程前期大学院生）

第26号 紀要編集委員会

永田 良太・陳 嬾如

編集後記

『広島大学日本語教育研究』第26号をお届けします。本号には8編の論文が掲載されています。いずれの論文も、これからの日本語教育の充実・発展に寄与しようとする問題意識のもとに書かれたものです。

近年、「グローバル化」が社会のキーワードになっていますが、グローバル化社会において重要なことは、自らの言語や文化を認識し、他者を尊重しながら、それを伝えていこうとする態度ではないかと思います。そして、それは私たち日本語教育に携わる者がこれまで行ってきたことであると言えるでしょう。

投稿規定にも記されているとおり、本誌には博士課程前期・後期の修了生も投稿することができます。修了生のみなさんがそれぞれの場所で抱かれた問題意識についての論考を、本誌を通して発表していただけることを期待しています。社会の激しい変化に対応するためにも、自らの足元をしっかりと見つめ直し、講座の教員、在学学生、修了生が一丸となって、これからの日本語教育やグローバル化社会に貢献していきたいと思います。

最後になりましたが、この1年も多くの大学、機関、学会等より本講座宛に紀要や機関誌・学会誌等の研究資料をご寄贈いただきました。大切に保管し、教育・研究活動に活用させていただきます。誠にありがとうございました。

(文責：永田)